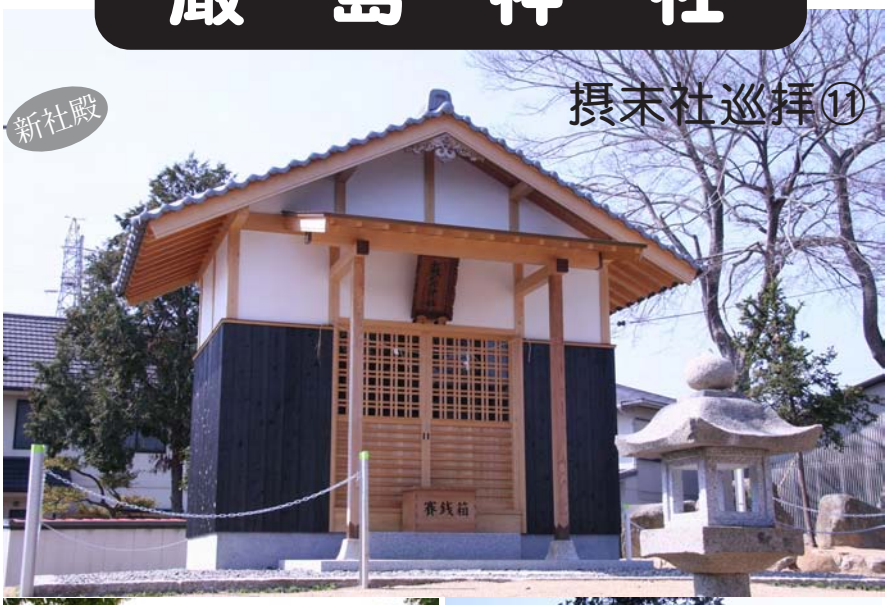
つるさき

発行所
鶴崎神社
早島町早島2220
〒701-0304
TEL FAX 482-0097
URL
www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

厳島神社

摂末社巡拝⑪



早島町早島 2329

祭神　市杵島姫命

当社は、市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）を祭神として祀り、弁才天地区の氏神として守られている。

市杵島姫命は厳島神社（安芸の宮島）の祭神であるが、七福神の弁才天（女性の仏神）と同一視される事もあった。そのために弁才天に置き換えられた祭神の名称をとって、この地区を弁才天と呼ぶ。

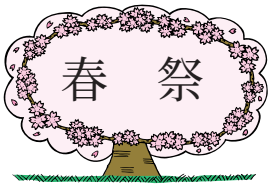
創祀は不明であるが、古くからこの地に祀られていた。明治二十五年本殿、拝殿の修理を行うと同時に、社殿の向きを東向きから北向きに変更した。

平成十一年四月鶴崎神社に合併。

平成十七年七月、社殿の老朽化により改築を決議し、外遷座祭を執行する。同年十一月、正遷座祭並びに竣工奉祝祭を執行した。また、平成十八年二月には内祀用の本殿も改築した。

境内には海水が洗った巨岩が多数あり、風光明媚な所として早島十景（町重文）の扁額に「弁天の浮見堂」として描かれている。

毎年春祭を五月第二日曜日、秋祭を十月第二日曜日に執り行っている。



春季大祭
5月20日（土）
宵祭り（午後7時）
5月21日（日）
供膳祭（午前10時）

春季に行われる祈年祭（きねんさい）を中心とした祭りを「春祭」という。

祈年祭は「としごひのまつり」ともいい、「とし」は穀物の事を指し、穀物の豊穣を祈る祭りという意味である。本来わが国の文化は、米作を中心とする農耕文化を基盤として成立しており、春に五穀豊穣を神に祈り、秋に至ってその豊作を神に感謝する基本的な祭祀儀礼が、律令国家成立に伴い、国家の祭祀として制定された。

したがって、宮中や伊勢神宮を始め全国の神社で年の始めにあたって、穀物の豊穣を祈ると共に国家の安泰を祈念した「祈年祭」を行って来た。

終戦後、その名称も一時消失したが、現在は春祭（祈年祭）として、執り行われている。

社殿建設に向けての経過

老朽化に伴う当社の社殿改築について、平成十六年四月に「社殿改築準備委員会」が設置され、その後三回の会議及び神社視察を行った。

昨年六月任期満了に伴う役員、総代の改選後、「社殿建設委員会規程」並びに「社殿建設奉賛会規約」の審議が行われ、合わせて建設業者が決定された。

十一月二十三日、社殿建設委員会が設置され、委員長を始めとする各委員が下記の通り決定された。

十二月十八日、第一回社殿建設常任委員会が開催され、神社の歴史、伝統を念頭において作成された設計図面及び見積書の内容が施行者により説明された。

一月二十一日、第二回常任委員会が開催され各自で予算案を作成する事とした。

二月十二日、第三回常任委員会が開催され、予算案の審議を行い設計変更を行う事とした。

三月十九日、第四回常任委員会が開催され、設計変更図面が承認された。

社殿建設委員会

委員長	総代長	安原　昇
副委員長	副総代長	藤原道明
常任委員	宮　司	太田浩司
常任委員	総　代	小郷正廣
常任委員	総　代	眞鍋秀夫
常任委員	総　代	永原耕吉
常任委員	総　代	小橋健太郎
常任委員	総　代	湯浅純二
常任委員	総　代	溝手昇司
委員	総　代	安原益重
委員	総　代	渡辺正明
委員	総　代	綱島　全
委員	総　代	今田　寛
委員	総　代	小野玲一
委員	総　代	大崎靖信
委員	総　代	蜂谷基正
委員	総　代	渡邉武志
委員	総　代	澤田和之
委員	総　代	渡辺　旭
委員	総　代	竹内　寿
委員	総　代	清田銀造
委員	総　代	大森英夫
顧問	顧　問	栗坂一男

神道Q&A

【質問】

台所の神棚にはカマドの神様をお祀りするとされますが、カマド神とはどのような神様なのですか？

【答え】

台所の神棚には、竈神のお神札をお祀りします。

竈神は、「荒神」「三宝荒神」「釜神」「火の神」などさまざまな呼称があり、主にカマドを中心とした各家の火を扱う場所にお祀りされる神様です。

食物の煮炊きに用いられる竈は、通常一軒に一カ所であったため、竈はその家を象徴するものと考えられました。分家することを「竈を分ける」などというのも、こうしたことによるものです。

竈の守りとして祀られる竈神は、単に火伏せの神としての御神格だけではなく、農作の神やその家の富や生命など生活全般を司る神として広く信仰されるようになりました。

屋内の場合、竈の近く（現在では台所など）に神棚を設けて、お神札や幣串を納めて祀るのが一般的ですが、地域によっては竈神の形相を表した面を祀ったり、松や榊などを竈神の依代（神の霊が宿るところ）とする事例なども見ることができます。

この地方では、竈神と一緒に焼き物などで作られた牛の置物をお祀りしていますが、これは田畑を耕す牛を農耕の神の信仰とする現れです。

さて、竈神の具体的な御神名ですが、「古事記」に大年神の子として「奥津日子神、次に奥津比売命、又の名は大戸比売神。此は諸人のもち拝く竈神なり」とあるように、奥津日子神・奥津比売命の二柱の神、若しくは大年神を合わせた三神が竈神とされています。

火の清浄を保つため、神祭りや葬祭などには別火を用いたり、大晦日に竈火を新たにして竈祓いの行事を行うことなどより、竈火を神聖なものとして扱う信仰をみることができます。

榎の枝打ち

境内の西側、中学校入り口付近にある榎の大木の葉が繁り、落葉の時期には付近に迷惑をかけていることから、枝打ちを行う事とし、二月十八日に氏子の菱川寿彦氏の奉仕により、総代、氏子六名が手伝い、伐採作業を行った。

半日で、土蔵の屋根にかかっていた大きな枝も全て短く切り揃えられ、境内の枯損木や障害木も伐採し、整理した。

大いに賑わった初詣

平成十八年の幕開けは、好天に恵まれ夜間にも拘わらず、一年の家族の安泰を祈る参拝者で溢れた。

午前十時からは、境内の特設テントで総代や氏子有志による恒例になった紅白の餅つき、社務所では甘酒接待、拝殿では御神酒が参拝者に振る舞われた。

また、如水会による「如水太鼓」、多聞会太鼓クラブによる「早島い草太鼓」、岡山銭太鼓つばさ会による「銭太鼓・傘踊り」の公演が行われ、勇壮な太鼓の音や息の合った踊りに参拝者から大きな拍手が送られた。

第五回目となる干支ジャンボ折り紙は、干支のイヌが特設舞台に展示され、夜間にはライトアップされた。

（初詣をする参拝者）

（勇壮な如水太鼓の公演）

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・当病平癒その他

◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・宅神祭・神葬祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

祭事暦

五月二十日（土）［午後七時］
　春季大祭宵祭（露店あり）
五月二十一日（日）［午前十時］
　春季大祭【供膳祭】
七月三十日（日）［午後五時］
　夏越祭【輪くぐり祭】（露店あり）
毎月一日（午前九時）月次祭
※月次祭にお詣りの方は、拝殿にご昇殿下さいまして祭典に参列して下さい。